

2017年6月19日号

Weekly Market Report

SMBC信託銀行 投資調査部レポート

本レポート記載のマクロ経済見通しは、当行がライセンス契約を結んでいる
Citi Research の予測を参照しています

2017年6月19日

目次

 SMBC信託銀行株式会社 投資調査部
 山口真弘 二宮圭子 白鳥朋子 佐溝将司 祖父江康宏 齊藤聡

米国市場の見通し

➤ P 2

- マクロ経済 ➤ インフレ圧力の鈍さが一時的か疑わしい
- 株式市場 ➤ バランスシート縮小は中長期的に相場環境を変化させよう
- 債券市場 ➤ 10年国債利回りの上昇余地は当面限定的だろう

欧州市場の見通し

➤ P 3

- マクロ経済 ➤ 独景気は力強さを維持
- 株式市場 ➤ チャートポイントに差し掛かる
- 債券市場 ➤ 利回りレンジ下限から切り返す展開

日本市場の見通し

➤ P 4

- マクロ経済 ➤ 具体的な出口戦略は示されず
- 株式市場 ➤ 手掛かり難から方向感に欠ける展開となろう
- 債券市場 ➤ 世界的なインフレ期待の低下が相場のサポートに

中国・インド市場の見通し

➤ P 5

- マクロ経済 ➤ 中国:官から民への転換は思うように進まず
- 中国株式市場 ➤ MSCI指数への採用判断に注目
- インド株式市場 ➤ 米国の低金利はインド株の支援材料

為替見通し

➤ P 6~P 8

- 米ドル ➤ FRBが具体的な出口戦略を発表
- 加ドル ➤ 加中銀の強気姿勢が加ドルを支える
- ユーロ ➤ ユーロは小じっかりと推移しよう
- 英ポンド ➤ ポンドの上値は徐々に重くなろう
- 豪ドル ➤ 住宅価格の伸びは鈍化するか
- NZドル ➤ 政策金利は据え置きの見通し

マーケット・データ、カレンダー

➤ P 9

本レポートは、株式会社SMBC信託銀行(以下「SMBC信託銀行」といいます)が経済、市況他、投資環境に関する情報をお伝えすることのみを目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料でも特定ファンドの勧誘資料でもありません。本レポートに掲載された内容は発行時における当行の見解や予測を紹介するもので、予告なしに変更することがあります。SMBC信託銀行はここに記載された情報が十分信頼に足るものとして信じておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。本レポート中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。当資料中のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資の選択や投資時期の決定は必ずご自分の判断でなされるようお願いいたします。

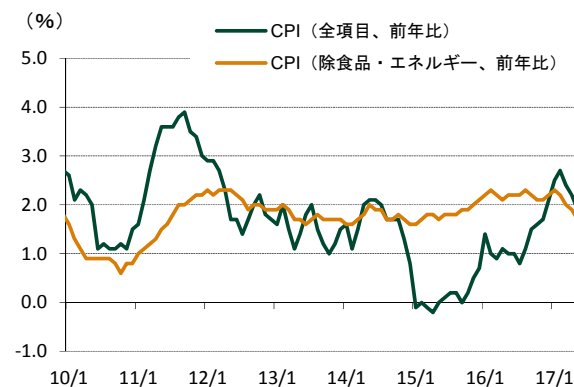
米国市場の見通し

マクロ経済 ≫ インフレ圧力の鈍さが一時的か疑わしい

- 5月の消費者物価指数(CPI)の前年比上昇率は、総合指数が1.9%、食品・エネルギーを除くコア指数が1.7%と、それぞれ前月(2.2%、1.9%)および事前予想(2.0%、1.9%)を下回った。今年に入り同指数の伸びの鈍化が続いており、インフレ圧力の鈍さが一時的なものか疑わしくなってきた。
- 13、14日に開催された米連邦公開市場委員会(FOMC)では政策金利が25bps引き上げられたほか、米連邦準備理事会(FRB)のバランスシート縮小の工程表公表とともに年内の開始が示唆された。当行では景気の持ち直しを想定し、バランスシートの縮小が9月に決定され、12月に利上げが行われるとみている*1。

*1'US Economics Flash', 2017.6.15, Citi Research

消費者物価指数



出所: 米労働省

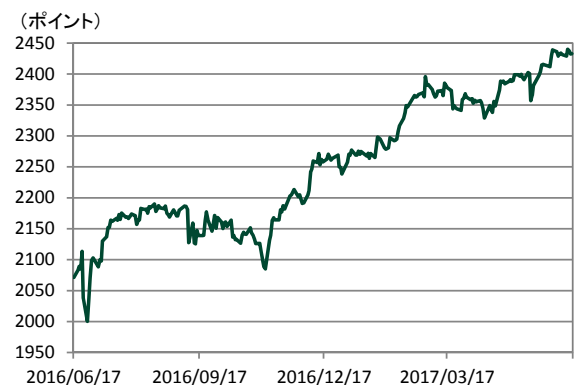
株式市場 ≫ バランスシート縮小は中長期的に相場環境を変化させよう

週間騰落率(6/12~6/16)

ダウ平均: +0.53%、S&P500: +0.06%

- 週間ベースで上昇。このところ下げが目立っていたハイテク株に買いが入り、投資家心理が改善。また、FOMCで利上げが決定されたことで利ざや拡大への思惑が広がったほか、規制緩和への期待が高まったことで金融株が上昇し、相場全体を押し上げた。
- 現時点で、バランスシートの縮小開始は利上げが先送りされるとの観測につながり、相場を下支えする材料と解釈されているようだ。しかしながら、これが過剰流動性相場の終わりの始まりで、バランスシート縮小が進むにつれて株価下落時に下値を拾う動きがこれまでより出にくくなる可能性があると考えられることもできる。中長期的には米国株式市場の相場環境が徐々に変化していく公算が大きいことは認識しておきたい。

S&P500株価指数



出所: Bloomberg

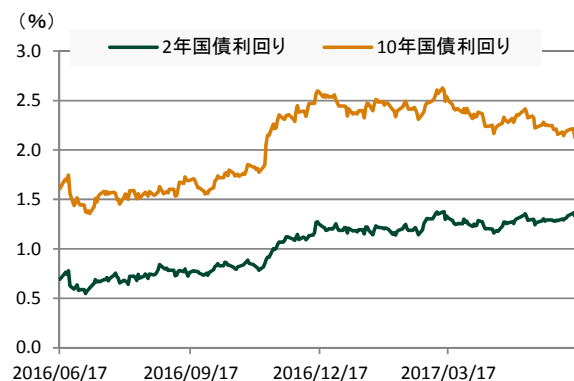
債券市場 ≫ 10年国債利回りの上昇余地は当面限定的だろう

利回り(6/16)

10年国債: 2.15%(前週末比: -0.05%)

- 先週は上昇。5月のCPIや小売売上高が事前予想を下回ったことで、今後の利上げに対する期待が剥落。10年国債利回りは一時2.10%台前半まで低下した。その後、FOMCが利上げを決定したほか、バランスシート縮小の工程表を示したことで売りが出たものの、同利回りの上昇幅は限定的となった。
- FOMCが公表した政策金利見通しでは、年内にさらに1回、来年と再来年にそれぞれ3回ずつ25bpsの利上げが行われるとの見通しが示された。しかしながら、債券市場の参加者はこうした見方に懐疑的で、インフレ動向を慎重に見極める姿勢を強めつつある。10年国債利回りの上昇余地は当面限定的となろう。

米国債利回り



出所: Bloomberg

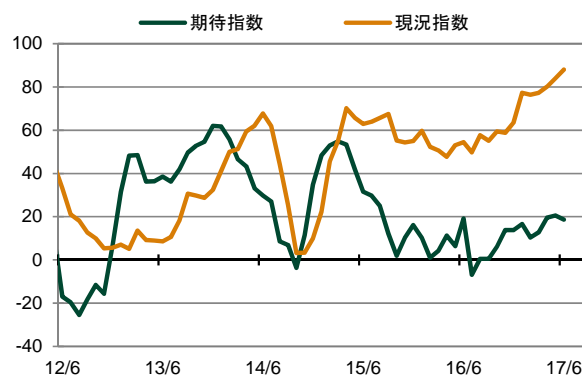
本レポートは、株式会社SMBC信託銀行(以下「SMBC信託銀行」といいます)が経済、市況他、投資環境に関する情報をお伝えすることのみを目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料でも特定ファンドの勧誘資料でもありません。本レポートに掲載された内容は発行時における当行の見解や予測を紹介するもので、予告なしに変更することがあります。SMBC信託銀行はここに記載された情報が十分信頼に足るものとして信じておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。本レポート中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。当資料中のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資の選択や投資時期の決定は必ずご自分の判断でなされるようお願いいたします。

欧州市場の見通し

マクロ経済 >> 独景気は力強さを維持

- 6月のドイツ(独)ZEW景況感指数は期待指数が18.6(前月比-2.0ポイント)と市場予想(21.7)に反して前月より低下した。ただし、5月にフランス(仏)大統領選の結果を好感し21カ月ぶりの高水準に達していた反動とみられ、景気判断の境目となる「0」を大幅に上回っている現状は依然景気力強さを維持していることを示している。
- 18日投開票の仏国民議会選挙の決選投票では、マクロン大統領率いる「共和国前進」が連携政党と合わせて全体の約6割となる350議席程度を獲得する見通しとなった。安定政権の確立により、同国の政治リスクは低下に向かうだろう。

独ZEW景況感指数



出所: 欧州経済研究センター(ZEW)

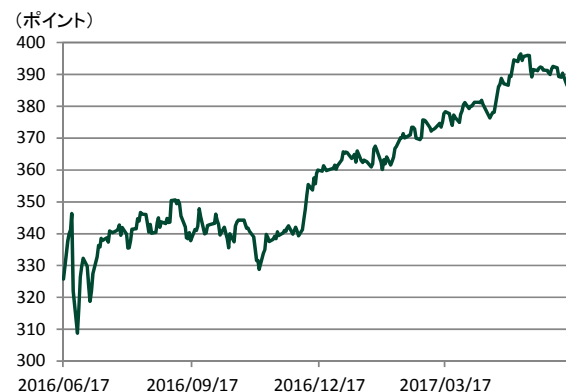
株式市場 >> チャートポイントに差し掛かる

週間騰落率(6/12~6/16)

ストックス欧州600指数: -0.46%、独DAX指数: -0.49%

- ストックス欧州600指数は2週続落。前週末の米主要ハイテク企業の下落が波及し、テクノロジー株が軟調だったほか、原油安が一段と進行したことを受けてエネルギー株にも売りが広がった。前々週末の仏下院選やイタリア(伊)の統一地方選(第1回投票)は一時的に好感されたが、買いは続かなかった。
- ストックス欧州600指数は1-3月期決算発表以降、上値の重い展開が続いている。チャート上、同指数は13週移動平均線に支えられたが、今週も軟調となれば欧州中銀(ECB)が資産買い入れの9カ月間延長を決定した昨年12月第2週以降で初めてこれを下回る可能性がある。短期トレンドを示す4週移動平均線に上値を抑えられているため、上昇基調を維持できるかどうか注目される。

ストックス欧州600指数



出所: Bloomberg

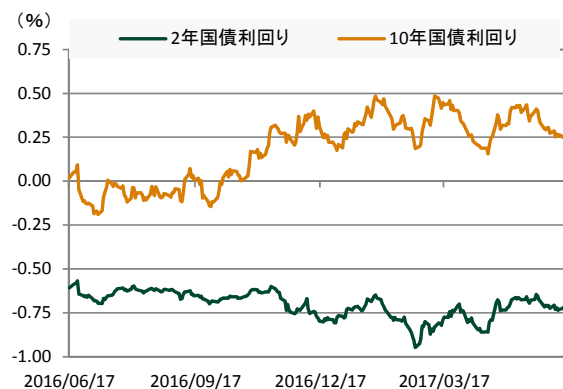
債券市場 >> 利回りレンジ下限から切り返す展開

利回り(6/16)

独10年国債: 0.28%(前週末比: +0.01%)

- 独国債相場は6週ぶりの反落。米国債利回りの低下を受けて週半ばまでは堅調に推移。また、伊統一地方選での極左政党「五つ星運動」の大敗や、ギリシャ向け金融支援の合意を受けて南欧国債は買われ、対独スプレッドが縮小した。ただし、英中銀の予想外のタカ派姿勢につられる形で、週後半は値を崩した。
- 今週は上値の重い展開を想定。独10年国債利回りは、年明け以降続く0.2-0.5%レンジ下限に接近していたため、自律反発が続くだろう。伊総選挙への警戒が和らぐなか、先週末の仏下院選の結果を受けて政治リスク後退が好感されれば、仏大統領選後と同様の展開も見込まれる。先週の英中銀の姿勢を受けて、ユーロ圏でも改めて金融引き締めが意識される可能性もある。

ドイツ国債利回り



出所: Bloomberg

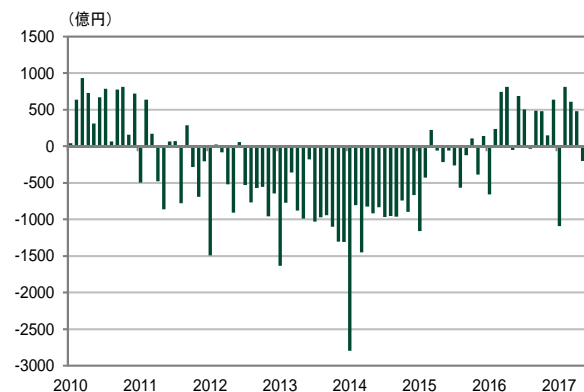
本レポートは、株式会社SMBC信託銀行(以下「SMBC信託銀行」といいます)が経済、市況他、投資環境に関する情報をお伝えすることのみを目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料でも特定ファンドの勧誘資料でもありません。本レポートに掲載された内容は発行時における当行の見解や予測を紹介するもので、予告なしに変更することがあります。SMBC信託銀行はここに記載された情報が十分信頼に足るものとして信じておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。本レポート中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。当資料中のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資の選択や投資時期の決定は必ずご自分の判断でなされるようお願いいたします。

日本市場の見通し

マクロ経済 >> 具体的な出口戦略は示されず

- 日銀は先週の金融政策決定会合で景気の総括判断を据え置く一方、海外経済と個人消費への見方を引き上げた。物価については、先行きは「2%に向けて上昇率を高めていくと考えられる」としつつ、足元は「引き続き弱含みの局面が続いている」とした。こうしたなか従前の金融政策が維持されたうえ、注目された出口戦略について黒田総裁は、「現時点で具体的手法の提示は難しい」と述べるにとどまった。
- 19日早朝に発表された貿易統計(通関ベース)によると、貿易収支が2034億円の赤字に。市場では5月実績としては7年ぶりの黒字が予想されていたが(433億円)、4カ月ぶりの赤字となった。

貿易収支(季調前)



出所:財務省

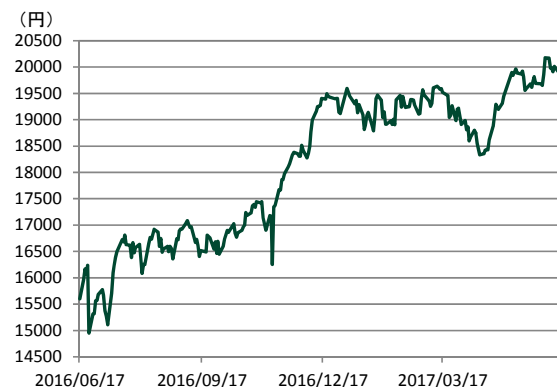
株式市場 >> 手掛かり難から方向感に欠ける展開となろう

週間騰落率(6/12~6/16)

日経平均株価: -0.35%、TOPIX: +0.28%

- 週間ベースで小動き。米連邦公開市場委員会(FOMC)を控えて方向感に欠けるなか、米ハイテク株安や日本の政局混迷などが重しに。FOMC通過後は日経平均が一時は2万円を回復する場面もあったが、終値ベースでは3週間ぶりに大台を割り込んだ。
- 今週は、日本及び米国でも政策に影響を与えるようなイベントがなく、手掛かり難から方向感に欠ける展開が予想されよう。日経平均は1万9700-1万9800円付近での底堅さを示す一方、2万円を超える水準では売り圧力が強まる公算が大きく、狭いレンジでの値動きが続くとみている。米ハイテク株が底打ちするかどうか、底打ちしなかった場合においても、東京市場でも出遅れセクターへの循環物色が進むかどうか注目していきたい。

日経平均株価



出所: Bloomberg

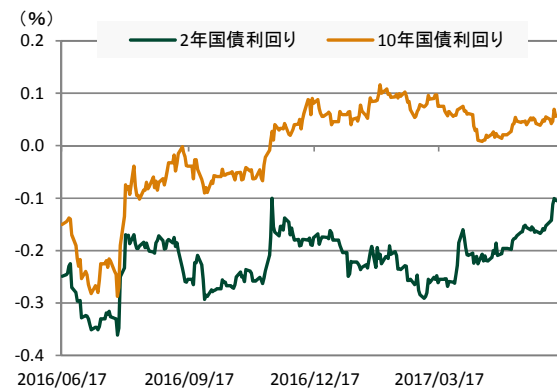
債券市場 >> 世界的なインフレ期待の低下が相場のサポートに

利回り(6/16)

10年国債: 0.06%(前週末比: 変わらず)

- 週間ベースでほぼ横ばい。13、14日にFOMCを控えて様子見ムードが広がるなか、週半ばにかけては米金利上昇に伴い売りが優勢。一方、FOMCを境に米金利が急低下したことで週末にかけては買い圧力がかかり、結局、方向感が出づらかった。
- 今週は20日に国債の大量償還、20、22日に財務省による流動性供給入札、21、23日に日銀による国債購入オペなどが予定されているが、好需給を背景に利回り上昇圧力がかかりづらい環境に変わりはないだろう。一連の重要な経済・政治イベントを通過した後であり、手掛かり難から動意に乏しい展開が予想される。ただ、原油安により世界的なインフレ期待が低下基調にあるため、10年国債利回りにもやや下押し圧力がかかりやすいか。

日本国債利回り



出所: Bloomberg

本レポートは、株式会社SMBC信託銀行(以下「SMBC信託銀行」といいます)が経済、市況他、投資環境に関する情報をお伝えすることのみを目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料でも特定ファンドの勧誘資料でもありません。本レポートに掲載された内容は発行時における当行の見解や予測を紹介するもので、予告なしに変更することがあります。SMBC信託銀行はここに記載された情報が十分信頼に足るものとして信じておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。本レポート中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。当資料中のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資の選択や投資時期の決定は必ずご自分の判断でなされるようお願いいたします。

中国・インド市場の見通し

マクロ経済 》 中国:官から民への転換は思うように進まず

- 先週発表された経済指標は、5月の鉱工業生産(前年比)が市場予想を上回り、小売売上高(同)は市場予想と一致。1-5月の固定資産投資(除く農村部)は同8.6%増と市場予想(同8.8%増)を下回ったが、総じてみれば景気の底堅さを示唆する結果となった。
- 固定資産投資の減速は、インフラ投資が同20.9%増、不動産開発投資が同8.8%増といずれも1-4月(同23.2%増、同9.3%増)から伸びが鈍化したことが主因。公共投資への高依存や不動産市況の過熱が懸念されていたため、悲観的になる必要はないだろう。ただ、民間投資も同6.8%増と1-4月(同6.9%増)を若干下振れ、官から民への転換は思うように進んでいないといえよう。

中国:固定資産投資(除く農村部、年初来)



出所: 国家統計局

中国株式市場 》 MSCI指数への採用判断に注目

週間騰落率 (6/12~6/16)

MSCI CHINA: -2.16%、CSI300 指数: -1.61%

- CSI300指数は反落。前週の大幅高を受けて利益確定売りが優勢となった。大手保険会社会長の拘束や中国銀行業監督管理委員会(銀監会)幹部の解任などの報道が続き、共産党執行部が再び金融業界の綱紀粛正の動きを強めていることも投資家心理を冷やした。
- 今週は20日に中国A株のMSCI指数への採用判断を控え、結果次第で上下いずれにも大きく振れる可能性がある。本稿執筆時点ではMSCI指数に採用されるとの見方がやや優勢で、事前観測通り、同指数に採用されれば、新規資金の流入期待から大幅高が期待できる。ただし、予想に反して採用が見送られれば、失望売りから大幅安となる展開が想定される。

MSCI CHINA、上海シンセンCSI300指数



出所: Bloomberg

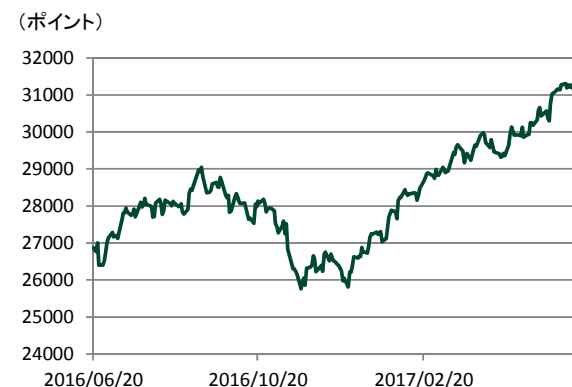
インド株式市場 》 米国の低金利はインド株の支援材料

週間上昇率 (6/12~6/16)

センセックス指数: -0.66%

- 週間ベースで続落。世界的にハイテク関連銘柄に調整売りが入り、インドでもITセクターへの売り圧力となった。また、米国の金融政策正常化が進展するとの観測を受けて売り買いが交錯。センセックス指数は31000ポイント台前半でもみ合い推移となった。
- 米国でバランスシート縮小が年内に始まるとの観測が浮上。利上げが先送りされるとの見方が強まり、先週は海外投資家のインド株投資が一段と増加した。米国で低金利環境が長期化するとの観測が強まることは新興国資産全般にとって好材料であるが、景気見通しや政治の安定性、構造改革期待などインド株式市場には他の新興国市場と比較した場合の優位性があると思われる。センセックス指数は底堅い推移が続くようだ。

センセックス指数



出所: Bloomberg

本レポートは、株式会社SMBC信託銀行(以下「SMBC信託銀行」といいます)が経済、市況他、投資環境に関する情報をお伝えすることのみを目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料でも特定ファンドの勧誘資料でもありません。本レポートに掲載された内容は発行時における当行の見解や予測を紹介するもので、予告なしに変更することがあります。SMBC信託銀行はここに記載された情報が十分信頼に足るものとして信じておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。本レポート中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。当資料中のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資の選択や投資時期の決定は必ずご自分の判断でなされるようお願いいたします。

為替見通し(米ドル、加ドル)

今週の予想レンジ

◆ドル円 108.90-111.90円

今週の注目ポイント

- 米:5月中古住宅販売件数(6/21)
- 米:5月新築住宅販売件数(6/23)
- 米:6月製造業PMI(6/23)

ドル円(出所:SMBC信託銀行)



*1 「モーニング経済メモ」,2017.6.15, Citi Research

■ 米ドル≫ FRBが具体的な出口戦略を発表

- 5月の米消費者物価指数上昇率は前年比1.9%と前月(同2.2%)から鈍化、米小売売上高は前月比0.3%減と3カ月ぶりに減少。1-3月期の景気減速は一時的とする見方に疑問が生じ、ドル円は108円台後半へ下落、4月20日以来の安値を付けた。米連邦公開市場委員会(FOMC)が0.25%の利上げを決定、バランスシート縮小の具体策も発表されると、ドル円は111円台前半を回復。ただ、週末に発表された6月の米シガン大消費者マインドもさえず、ドル円は110円台後半で越週。なおFOMC参加者の金利見通しの中心値は今年3回、来年3回の利上げと、3月時点と変わらず。米連邦準備理事会(FRB)の政策正常化への積極姿勢が示されるなか、当行は9月にバランスシート縮小を発表、12月に利上げと予想を変更した*1。
- 今週は、NY連銀ダドリー総裁(19日)やフィッシャーFRB副議長(20日)の講演からFRBのバランスシート縮小開始時期に関して何らかのヒントが得られる可能性も。また、市場予想によると、今週発表される5月の米中古住宅販売は前月比減少だが、5月の米新築住宅販売や6月の米製造業PMIは堅調な見通し。予想通りであれば、米経済への悲観論がやや後退し、ドル円買い戻しに勢いがつく可能性も。チャート上、ドル円は6月14日安値108円83銭が当面の下値メド、100日移動平均線が位置する111円89銭が上値メド。

今週の予想レンジ

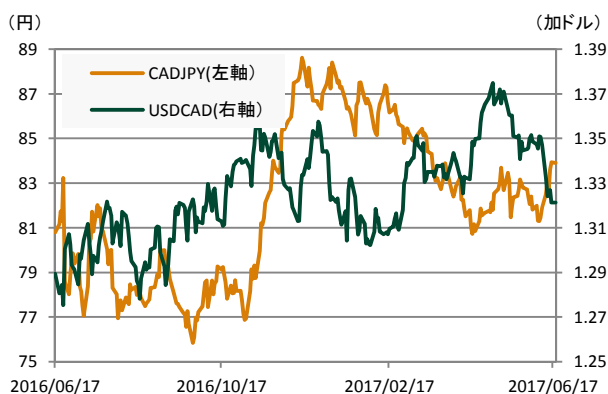
◆加ドル円 82.40-85.00円

◆米ドル加ドル 1.3100-1.3350加ドル

今週の注目ポイント

- 加:4月小売売上高(6/22)
- 加:5月消費者物価指数(6/23)

加ドル円、米ドル加ドル(出所:SMBC信託銀行)



■ 加ドル≫ 加中銀の強気姿勢が加ドルを支える

- 12日、加中銀(BOC)のウィルキンス副総裁が好調な1-3月期の景気を踏まえると、「BOCは現在実施している金融刺激策が依然として全て必要かどうか検討を行うことになる」と述べ、加ドルが急騰。13日にポロズ総裁が「足元の経済は勢いを強めつつある」と副総裁の発言を追認すると、BOCの早期利上げ観測が浮上。米ドル加ドルは1.34加ドル台後半から1.31加ドル台後半へ、2月28日以来の加ドル高米ドル安が進んだ。他方、加ドル円は81円台前半から84円台前半へ上昇して越週した。
- 4月の加製造業売上高は前月比1.1%増と2カ月連続で増加したものの、5月の加中古住宅販売件数は前月比6.2%減と、前月からの落ち込み幅が2014年の統計開始以来最大となるなど、統計はまちまち。5月の政策金利発表の際には4-6月期の景気減速などを理由に据え置きを決定しており、BOC要人の発言には意外感も。今週カナダで発表される4月の小売売上高は前月比0.3%増、5月の消費者物価指数上昇率は前年比1.5%と共に前月より伸びが鈍化の見通し。市場予想に反して伸びが加速した場合、早期利上げ観測が勢いを増し、加ドル高にはずみがつきそうだ。チャート上、米ドル加ドルは節目の1.31加ドルが下値メド、200日移動平均線の1.3338加ドル辺りが上値メドとみる。他方、加ドル円の下値メドは6月14日安値82円39銭、上値メドは節目の85円ちょうどか。

本レポートは、株式会社SMBC信託銀行(以下「SMBC信託銀行」といいます)が経済、市況他、投資環境に関する情報をお伝えすることのみを目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料でも特定ファンドの勧誘資料でもありません。本レポートに掲載された内容は発行時における当行の見解や予測を紹介するもので、予告なしに変更することがあります。SMBC信託銀行はここに記載された情報が十分信頼に足るものとして信じておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。本レポート中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。当資料中のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資の選択や投資時期の決定は必ずご自分の判断でなされるようお願いいたします。

為替見通し(ユーロ、英ポンド)

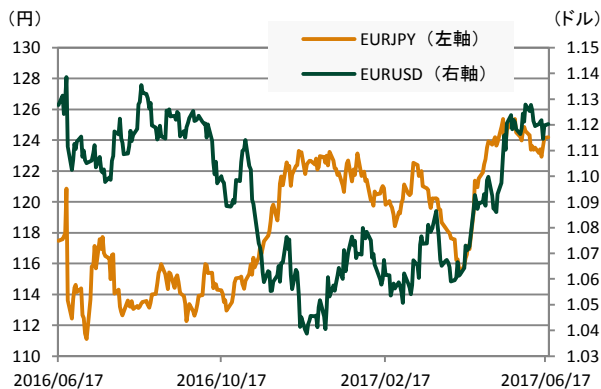
今週の予想レンジ

- ◆ユーロ円 123.30-125.80 円
- ◆ユーロドル 1.1100-1.1350 ドル

今週の注目ポイント

- 欧:6月消費者信頼感指数(6/22)
- 欧:欧州連合(EU)首脳会議(6/22,23)
- 欧:6月製造業・サービス業 PMI(6/23)

ユーロ円、ユーロドル(出所:SMBC信託銀行)



ユーロ》ユーロは小じっかりと推移しよう

- 米経済指標の悪化を背景にドル売りが先行、ユーロドルは14日に1.11ドル台後半から1.13ドルちょうど付近まで急伸した。その後、スイス中銀が15日に超緩和的金融政策を維持し、スイスフラン高を抑えるためマイナス金利と為替介入の継続を発表したが、ユーロ買いは限定された。一方、英中銀(BOE)金融政策委員会(MPC)の政策決定を受けて年内の利上げ観測が浮上し、対ポンドではユーロが急落。ユーロドルは1.11ドル台前半の安値を付けた。ただ、ユーロ圏財務相会合でギリシャへの85億ユーロの融資実施で合意すると同国国債利回りが低下、週末には1.12ドル台前半まで下げ幅を縮小した。ユーロ円は122円台前半で下げ渋ると反発、124円台前半で越週した。
- 市場予想では、ユーロ圏で発表される6月の消費者信頼感は一時的にマイナス3.0と前月(マイナス3.3)から改善するが、製造業PMIは56.8、サービス業PMIは56.1といずれも前月から低下する見通し。指標結果にユーロ相場は小幅に上下振れる展開を想定しているが、英政府が19日から開始する欧州連合(EU)との離脱交渉は波乱要因となり得る。双方の主張に隔たりがあるため、協議に進展がみられなければポンド売り・ユーロ買いが強まる可能性も。上値メドはユーロドルが昨年11月9日高値1.1300ドル、ユーロ円は5月16日高値125円82銭。下値メドは日足一目均衡表・基準線1.1109ドル、15日安値122円40銭。

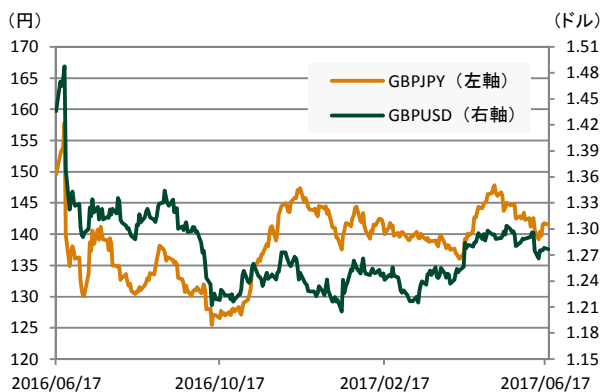
今週の予想レンジ

- ◆ポンド円 140.50-143.50 円
- ◆ポンド米ドル 1.2650-1.2900 米ドル

今週の注目ポイント

- 英:5月財政収支(6/21)

ポンド円、ポンドドル(出所:SMBC信託銀行)



英ポンド》ポンドの上値は徐々に重くなろう

- 先週、英国で発表された5月の消費者物価指数(CPI)上昇率は前年比2.9%と2013年6月以来の高い伸びとなった。また、2-4月の失業率(ILO基準)は4.6%と低水準にとどまったが、週平均賃金(除く賞与)の伸びは同1.7%増へ鈍化。さらに、5月の小売売上高(除く自動車燃料)は前月比1.6%減と大幅に落ち込んだ。既往のポンド安もインフレ加速の一因となっているが、賃金の伸びが鈍く個人消費は減速するとの懸念もくすぶる。
- 英中銀(BOE)は15日の金融政策委員会(MPC)で政策金利を0.25%に据え置くなど現行政策を維持した。ただ、議事録からは3名の委員が利上げを支持したことが明らかになり、英国債利回りが急騰。ロンドンのマンション火災を受けて、カーニー総裁の会見は日本時間20日の16時半に延期されたが、年内の利上げ観測が浮上しポンドは急伸。ポンドドルは1.26ドル台前半から1.28ドル台前半、ポンド円は138円台後半から142円台前半で振幅しつつも上値を追った。市場予想によれば、5月の英財政赤字(除く銀行グループ)は68億ポンドと前年同月(69.8億ポンド)から赤字幅が縮小する見通し。なお、英政府は19日に欧州連合(EU)との離脱交渉を開始するが、ハングパーラメントの状態が長引けば財政再建の進展も見込みにくい。ポンドの反発地合いは長く続かず、上値は徐々に重くなろう。

本レポートは、株式会社SMBC信託銀行(以下「SMBC信託銀行」といいます)が経済、市況他、投資環境に関する情報をお伝えすることのみを目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料でも特定ファンドの勧誘資料でもありません。本レポートに掲載された内容は発行時における当行の見解や予測を紹介するもので、予告なしに変更することがあります。SMBC信託銀行はここに記載された情報が十分信頼に足るものとして信じておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。本レポート中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。当資料中のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資の選択や投資時期の決定は必ずご自分の判断でなされるようお願いいたします。

為替見通し(豪ドル、NZドル)

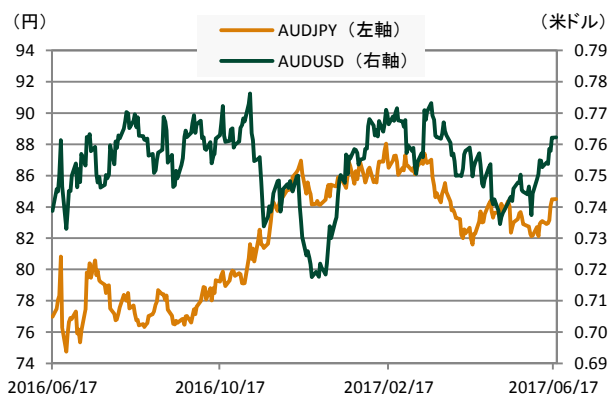
今週の予想レンジ

- ◆豪ドル円 83.00-86.00 円
- ◆豪ドル米ドル 0.7500-0.7750 ドル

今週の注目ポイント

- 豪:1-3月期住宅価格指数(6/20)
- 豪:RBA 理事会議事録(6/20)

豪ドル円、豪ドル米ドル(出所:SMBC信託銀行)



*1 "Australia/NZ Economics Weekly", 2017.6.16, Citi Research

■ 豪ドル≫ 住宅価格の伸びは鈍化するか

- 5月の消費者物価指数など低調な米経済指標を受けて、週半ばにかけて米ドル安・豪ドル高地合いとなった。また、15日に発表された5月の豪雇用統計では雇用者数が前月比4万2000人増と高水準が維持されたほか、失業率は5.5%と前月(5.7%)から低下。こうしたなか、豪ドル米ドルは0.76米ドル台前半へ上昇した。週後半には米連邦公開市場委員会(FOMC)の会合内容をはじめ米国関連の材料に左右されて上下したが、0.75米ドル台後半では底堅く、0.76米ドル台前半へ持ち直して週の取引を終えた。豪ドル円は週前半に82円台半ばへ下落したが、その後は米ドル円の堅調な推移を背景に84円台後半へ反発。週終盤はやや押し戻されたが84円台半ばでの越週となった。
- 市場予想によれば1-3月期の豪住宅価格指数は前期比2.2%上昇と前期(同4.1%上昇)から伸びが鈍化する見通し。豪州ではシドニーやメルボルンといった主要都市を中心に不動産価格が高騰してきたが、上昇ペースが鈍っているか注目される。また、賃金の伸び悩みを背景にインフレ率はRBAのインフレ目標を下回っており、金融政策はしばらく現状維持される公算が大きい*1。今週は豪州準備銀行(RBA)理事会・議事録(6月6日開催分)も公表されるが、目新しい材料がなければ豪ドルは底堅さを試される展開か。チャート上、豪ドル円は日足一目均衡表・雲下限83円31銭付近が目先のサポートとみられる。

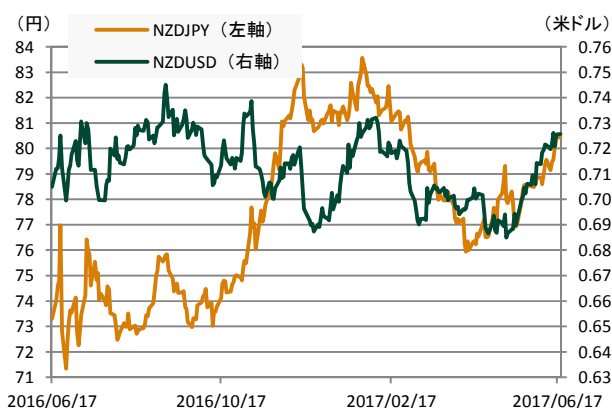
今週の予想レンジ

- ◆NZドル円 79.00-82.00 円
- ◆NZドル米ドル 0.7100-0.7400 米ドル

今週の注目ポイント

- NZ:6月 ANZ 消費者信頼感指数(6/20)
- NZ:RBNZ 金融政策発表(6/22)

NZドル円、NZドル米ドル(出所:SMBC信託銀行)



■ NZドル≫ 政策金利は据え置きの見通し

- ニュージーランド(NZ)で発表された1-3月期の経常収支は2億4400万NZドルの黒字と前年同期(1億700万NZドルの黒字)を上回った。こうしたなか、米ドルの軟調地合いも相まってNZドル米ドルは週初に付けた0.71米ドル台後半から0.73米ドル台前半へ上伸する場面もみられた。ただ、週末にかけてはFOMCの内容や米経済指標を受けて米ドル主導で振幅し、0.72米ドル台半ばで週の取引を終えた。NZドル円は週後半までは79円ちょうど付近から80円ちょうど付近で上下。ただ、週末にかけては上値を追う展開となり80円台後半へ上昇した。
- 今週は22日にNZ準備銀行(RBNZ)が最新の金融政策を決定するが、政策金利については1.75%での据え置きが市場で見込まれている。足元、乳製品の国際価格を示すGDT価格指数が約3年ぶりの高値を付けたほか、先週発表された5月のNZ製造業PMIは昨年1月以来の高水準を付け、企業マインドの改善が示されるなどNZ経済にとって明るい兆しが見受けられる。ただ、為替相場におけるNZドル高の進行は景気を圧迫する可能性もあり、政策決定に伴い公表される声明で通貨高牽制がなされればNZドルに短期的な下押し圧力がかかり得るため留意したい。チャート上、NZドル米ドルは6月5日安値0.7114米ドル、NZドル円は6月15日安値の78円98銭付近が目先の下値メドと見込まれる。

本レポートは、株式会社SMBC信託銀行(以下「SMBC信託銀行」といいます)が経済、市況他、投資環境に関する情報をお伝えすることのみを目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料でも特定ファンドの勧誘資料でもありません。本レポートに掲載された内容は発行時における当行の見解や予測を紹介するもので、予告なしに変更することがあります。SMBC信託銀行はここに記載された情報が十分信頼に足るものとして信じておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。本レポート中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。当資料中のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資の選択や投資時期の決定は必ずご自分の判断でなさるようお願いいたします。

マーケット・データ

(2017年6月16日時点)

株式				騰落率(%)				騰落率(%)			
国・地域	指標	6/16	週間	年初来	国・地域	指標	6/16	週間	年初来		
米国	NYダウ工業株30種	21,384.28	0.53	8.21	日本	日経平均株価	19,943.26	-0.35	4.34		
米国	S&P500種	2,433.15	0.06	8.68	日本	TOPIX	1,596.04	0.28	5.10		
米国	ナスダック総合株価指数	6,151.76	-0.90	14.28	日本	JASDAQ指数	142.61	-0.13	16.22		
ブラジル	ボベスパ指数	61,626.41	-0.94	2.32	香港	ハンセン指数	25,626.49	-1.55	16.48		
ヨーロッパ	ストックス欧州600指数	388.60	-0.46	7.52	中国	MSCI CHINA	71.96	-2.16	22.69		
イギリス	FT100指数	7,463.54	-0.85	4.49	中国	上海深センCSI300指数	3,518.76	-1.61	6.30		
ドイツ	DAX指数	12,752.73	-0.49	11.08	韓国	韓国総合指数	2,361.83	-0.83	16.55		
フランス	CAC40	5,263.31	-0.69	8.25	台湾	加権指数	10,156.73	-0.42	9.76		
ロシア	RTS指数	994.38	-4.52	-13.71	シンガポール	ST指数	3,231.44	-0.70	12.17		
トルコ	イスタンブールナショナル100種	98,192.55	-0.76	25.66	インド	センセックス指数	31,056.40	-0.66	16.64		

債券				騰落率(%)※					
国・地域	指標	6/16	週間	年初来	国・地域	指標	6/16	週間	年初来
米国	10年国債利回り	2.15	-0.05	-0.29	米国	NAREIT指数	680.96	1.18	4.21
ドイツ	10年国債利回り	0.28	0.01	0.07	日本	東証REIT指数	1,739.42	0.29	-6.27
日本	10年国債利回り	0.06	0.00	0.01	米国	WTI原油先物価格	44.74	-2.38	-16.72
豪州	10年国債利回り	2.41	0.00	-0.36	米国	NY金価格	1,254.00	-1.14	8.88

※債券利回りは変動幅(%)

為替				騰落幅(円)					
通貨		6/16	週間	年初来	通貨		6/16	週間	年初来
ドル円		110.88	0.56	-6.08	加ドル円		83.93	2.02	-3.08
ユーロ円		124.15	0.64	1.18	豪ドル円		84.48	1.39	0.26
ポンド円		141.74	1.13	-2.76	NZドル円		80.42	0.86	-0.56

オルタナティブ				騰落率(%)					
国・地域	指標	6/16	週間	年初来	国・地域	指標	6/16	週間	年初来
米国	NAREIT指数	680.96	1.18	4.21	日本	東証REIT指数	1,739.42	0.29	-6.27
日本	東証REIT指数	1,739.42	0.29	-6.27	米国	WTI原油先物価格	44.74	-2.38	-16.72
米国	WTI原油先物価格	44.74	-2.38	-16.72	米国	NY金価格	1,254.00	-1.14	8.88
米国	NY金価格	1,254.00	-1.14	8.88					

出所: SMBC信託銀行

マーケット・カレンダー

(2017年6月19日~2017年6月25日)

北米				欧州				アジア					
6/19(月)								(日)	通関ベース貿易収支	5月			
6/20(火)								(豪)	RBA理事会議事録	6/6分			
6/21(水)	(米)	中古住宅販売件数	5月					(日)	日銀政策決定会合議事要旨	4/26、27分			
6/22(木)	(米)	景気先行指数	5月	(欧)	消費者信頼感指数	6月	(NZ)	RBNZ金融政策発表					
	(加)	小売売上高	4月										
6/23(金)	(米)	新築住宅販売件数	5月	(欧)	製造業・サービス業PMI	6月							
	(米)	製造業PMI	6月										
	(加)	消費者物価指数	5月										
6/24(土)													
6/25(日)													

出所: SMBC信託銀行

本レポートは、株式会社SMBC信託銀行(以下「SMBC信託銀行」といいます)が経済、市況他、投資環境に関する情報をお伝えすることのみを目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料でも特定ファンドの勧誘資料でもありません。本レポートに掲載された内容は発行時における当行の見解や予測を紹介するもので、予告なしに変更することがあります。SMBC信託銀行はここに記載された情報が十分信頼に足るものとして信じておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。本レポート中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。当資料中のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資の選択や投資時期の決定は必ずご自分の判断でなさるようお願いいたします。